

緑区の伝統文化・民俗

回り地蔵

回り地蔵（廻り地蔵ともいう）は江戸時代から続く風習ですが、現在は神奈川県内では緑区白山のほか、泉区下飯田と都筑区池辺町、港北区新羽町の計4か所のみで行われています。平成25年には横浜市無形民俗文化財に指定されています。

子どもを護り救う仏と信じられている地蔵を厨子に入れ、背負いながら各家を持ち回ります。白山地区の「回り地蔵」は1つの家庭に1週間から10日間程度、他の地域では1か月程度、その家がお供えをしてお地蔵様の世話をします。



ドンド焼き

ドンド焼きは、お正月の神祭に用いた材料を燃やすことで年神を空に送り、その年の招福や厄払いを願うものです。地域によってはドンドン焼きやサイト払いなどさまざまな呼び方があります。

また、この火で焼いた団子を食べると健康でいられ、書初めなどを燃やすと上達するといわれています。



カセドリと寺山の短冊

カセドリとは、年の変わり目などに家々を訪問し、その土地に祝福と豊穰をもたらすとされる来訪神行事です。緑区では小正月になると仮装した子どもたちがミニチュアの農具を持って地域の各家を回っていました。その中でも寺山地区では珍しく、短冊に俳句を書いて持ち回っていました。

緑区では大正初期まで寺山地区や川和地区でカセドリが行われていました。



神奈川県立歴史博物館所蔵

長津田囃子・西八朔囃子・ 鴨居囃子・寺山はやし・梅田囃子

地域の行事や祝い事の際に演奏し華を添える、人々の生活に寄り添ったお囃子。現在でもお囃子文化を継承し、技術を高めることを目的に各地区で保存会が活躍しています。



撮影者：岩間 茂次

地神講

五穀豊穰などの祈りを込めて、農家では同一の信仰を持つ人々による結社である「講」で地神を祀る風習があります。年2回、彼岸の中日の春分の日と秋分の日には、地神様が土から出られるとされ、畑仕事を休んでお日待（日の出を待って夜明かしをすること）をします。この際に「ヤド」と呼ばれる当番の家には地神様の掛け軸が持ち回られます。



花籠の舞

参勤交代のため鎌倉街道を大名行列が通る際に、槍の舞が行われました。この槍の舞を表現して、「花籠の舞」として引き継がれています。

舞では4つの花籠が1組となって華やかに花が乱舞します。この伝統をいつまでも残すために、中山町では平成12年から「子ども用花籠」も新たに始めました。



緑区音頭

緑区の地域連携を深めるとともに、区の活性化を図ることで区全体のイメージアップをすることを目的に、平成9年に作られました。

作曲は歌手の山本譲二さん、歌詞は区民公募の中から選考委員会で決定しました。



【参考文献】

『横浜「緑区史」』昭和61年12月発行 緑区史刊行委員会発行
『わが町の昔と今 緑区編』平成15年1月発行 岩田忠利 著